

(薩摩郡鶴田町田間田)

位置と環境

田間田遺跡は、薩摩郡鶴田町鶴田字田間田の川内川の支流の前川によって形成された沖積地上に営まれる水田地域に所在している。散布地は、沖積地のほぼ中央の微高地上の約2000㎡の範囲内に確認され、周囲は前川の蛇行によって形成された氾濫原となっている。

調査の経緯

鶴田町教育委員会は、県営圃場整備事業鶴田地区区内で埋蔵文化財を発見し、昭和60年8月13日に県教育委員会に連絡した。協議の結果、調査は、県教育委員会の協力を得て、昭和60年9月9日から12日の間に微高地上の散布地と板石の集合部分の確認調査と本調査を実施した。

遺構と遺物

板状集石 T3で、土坑状の穴に投げ込まれた状態で20数個の板状石の散乱が確認された。古墳時代の地下式板石積石室墓の可能性が考えられたが、板石は肉厚が大きく、板石積石室墓に使用される石材とは異なることが判明した。周辺を拡張したが、それらしい遺構は確認されなかった。

1号埋設土器 T4の北側に検出されたもので、縄文時代晩期の深鉢形土器一個体文である。深鉢は、埋設された状態で直立して発見され、底部は埋設以前に破損されていた。

2号埋設土器 T4の中程に検出されたもので、ほとんどが削平を受けて散乱していたが、底部が旧状に近い状態で発見され、その上に浅鉢が検出された。

3号埋設土器 T4の北側で1号埋設土器の更に北の位置し、ほとんど散乱した状態で検出された。晩期の粗製の深鉢である。

晩期土器のほかに、前期の春日式土器に該当する土器片も発見され、この微高地は前期から生活が営まれていたことが判明した。石器は、石鎌（7本）と石斧（3本）が出土しているが周辺からの採集品である。

特徴

川内川の支流の前川が形成する微高地上に縄文時



第1図 田間田遺跡の位置

代晩期の立地を知る良好な遺跡の一つである。

埋設土器は、1号から3号は1号を除いて残存度は悪いが、晩期前半期の入佐式土器に属するものである。1号は精製の深鉢が、2号は精製の深鉢と浅鉢が、3号は粗製の深鉢がそれぞれ単独に出土している。

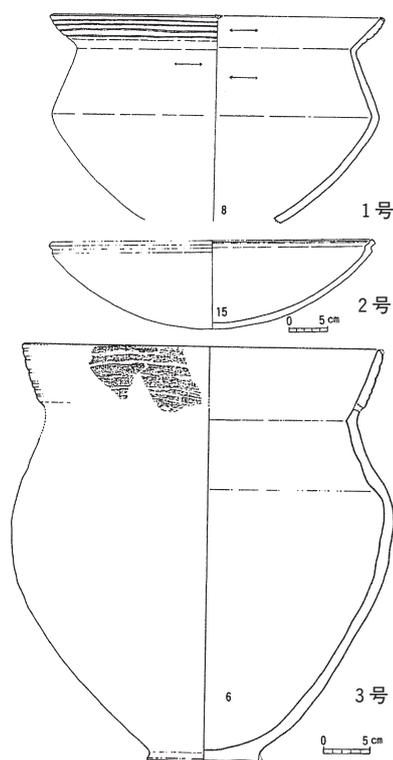
資料の所在

出土遺物は、鶴田町教育委員会に保管されている。

参考文献

鶴田町教育委員会1986「田間田遺跡」『鶴田町埋蔵文化財発掘調査報告書』1

(新東晃一)



第2図 埋設土器